

漢法苞徳塾資料	No. 163
区分	資料
タイトル	十四難丁徳用・注の表（伝統医協・難経講義・補注）
著者	八木素萌
作成日	1992.01.20

◎『難経集註』の、十四難の注の内の「不足病」についての「丁徳用」注は臨床的に具体的な配穴などを記述していて有用である、その故か後代にずっと影響して来ているように見受ける。故にその注釈文を写して、更に図表化して置く。

丁徳用注の不足病の治療に関する文章の全部、「丁曰」の文字は省略する。

☆「肺者 主其氣 故損即補之以鹹 補其手太陰經中兪太淵穴也 以辛味佐不足 即是益其氣也」

☆「心者 主榮衛 故損即補之以鹹 補其手少陰經中井 手厥陰經中井 是其母 手少衝 手中衝 亦是其母 以苦味佐之 此調其榮衛之現也」

☆（脾については、呂・丁・虞の三者は治療について記述しているが、取穴取経については全く記述していない。）虞の注の内「…今見脾損 飲食不為肌肉 宜調節飲食 無令傷脾也 適其寒温者 啓玄子謂春涼食 夏冷食 秋温食 冬熱食也 本経曰 飲食勞倦傷脾也」は興味深い記述である。

☆「肝主怒 以甘緩其中 以土味和其肝 当補足厥陰合曲泉穴是也」

☆「益其精者 以鹹味補之 当補足少陰經中復溜穴 是其母也」

当補

肝	足厥陰合・曲泉	主怒 以甘緩其中 以土味和其肝
心	手少陰經井・亦手厥陰井・少衝 or 中衝	以苦味佐之 此調其榮衛
脾	（足太陰經・大都 or 太白）	（調其飲食・適其寒温也）…条文
肺	手太陰經・太淵	以辛味佐不足 即是益其氣也
腎	足少陰經・復溜	益其精者 以鹹味補之